



第 12 号

R2.7.9

文責 倉迫

建学 145 年

人権学習の取組み

前号からの続きです。

◎ 4 年生

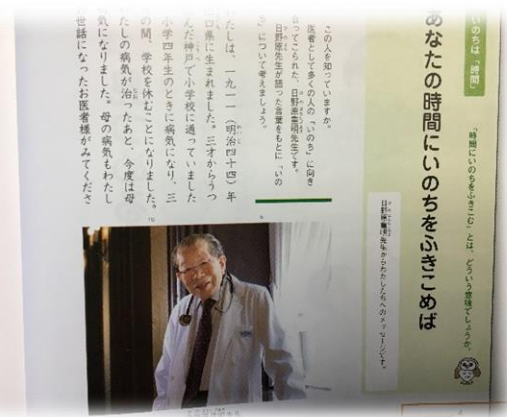
【題材名】あなたの時間に命をふきこめば (道徳科～日野原重明先生の話から)

【学習内容】

命を大切にすること、その命を何のために使うかという命の質でもあることに気づき、限りある命を大切に生きようとする心情を深める。

【子どもたちの反応】

○自分の命の時間を大切にするだけでなく、その時間を友だちや家族等、人のために使いたい。限りある命を大切にしたいと多くの子どもが考えを深めていた。



講演会で話をする日野原先生

◎ 5 年生

【題材名】バリアフリーについて考えよう

【学習内容】

まずは、「人権」とは何かについて考えることから学習に入った。

次に、車いすの人やお年寄りの人が困っているイラストを見ながら、なぜ困っているのか、みんなが暮らしやすくなるためにはどうすればいいのかについて考えを出し合った。「スロープが急だから、もっと緩やかになるといい。」「手すりがあると歩きやすいよ。」など様々な意見が出された。身近にあるバリアフリ

ーについて考える場面では、五福の校区にあるものを出し合い、「あ～あるある。」などお互いに確認し合う場面が見られた。

その後、「心のバリアフリー」について話し合った。最初は「心のバリアフリー」についてはあまりピンときていない様子だったが、点字ブロックの上に自転車がとまっているイラストを見て、環境がいくら整っても人が人のことを思いやっていないければ、バリアフリーではないということを感じることができていた。

【子ども反応】

- 今度から自分も人のことを考えて行動しようと思った。これからもっとバリアフリーができるといいです。そして、病気の人やけがをしている人を見つけたら、助けようと思いました。
- お父さんのお店の入り口にはスロープがついているけど、少し急だから、もし車いすの人が来たら、後ろから声をかけておしてあげたい。
- 心のバリアフリーとは「人のことを思う」ということなんだと思いました。
- 4年生のころにバリアフリー探しをしました。写真に撮っているのですが、心のバリアフリーというものは初めて知りました。私も心のバリアフリーをしたいと思います。

熊本市人権教育の目標

「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようになり、それが具体的な態度や行動に現れるようにすること」

ひらがなの学習

入学式から1か月たった1年生。国語科では、ひらがなの学習や拗音(きゃ、きゅ、きょなど)・促音(きって、こっぷなど)等の学習を進めています。

オープンスペースの窓枠には、習ったひらがなを印象付けるため、大きな手本と一緒に一つの文字を連続して使った俳句風な言葉が掲示してあります。



「こ」◎うていに ◎いのほりおよく ◎どものひ
「と」◎んぼ ◎んだよ ◎おくまで
「も」◎◎たろう ◎ぐ◎ぐたべて ◎り◎りげんき